

## 令和 8 年 1 月月例記者会見

### 〔01-01\_「脱炭素シンポジウム」を 2 月 23 日に開催〕

（資料）[https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126\\_01-01\\_.pdf](https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126_01-01_.pdf)

（チラシ）[https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126\\_01-02.pdf](https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126_01-02.pdf)

市長 【別添資料・チラシに基づき説明・挨拶】

楠代表理事(市民エネルギー生駒) 【挨拶】

#### 【 質疑応答 】

記者 シンポジウム開催されるのは初めてですか。

楠代表理事 2014 年 2 月に環境モデル都市に認定されたとき、それを記念して開催されています。その後、「SDG s 未来都市」、「脱炭素選考地域」に選定され階段を少しずつ上がってきて、今回 12 年ぶりに市と共催することとなりました。

市長 こうして大々的に開催するのは 2 回目ですが、講師の江守さんは令和 2 年に開催したセミナーに登壇していただいたこともあります。

### 〔02\_大人気漫画「二月の勝者」の作者・高瀬志帆さんによる講演会を開催〕

（資料）[https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126\\_02\\_.pdf](https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126_02_.pdf)

市長 【別添資料に基づき、市長から説明】

#### 【 質疑応答 】

記者 抽選制となっていますが、市民以外も応募できるのですか。

市長・担当課 原則、どなたに来ていただいても大丈夫です。

記者 講師の高瀬さんは、生駒市ゆかりの方ですか、また、他にもこのような講演などされていますか。

市長 本市出身ではありませんが、高瀬さんはこうした公演をあまりされていないと思います、担当課の方で丁寧に調整してくれて、今回、開催させていただくことになりました。

### 〔03\_「IKOMA FC 奈良」といっしょにサッカーでまちを元気に〕

（資料）[https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126\\_03\\_.pdf](https://www.city.ikoma.lg.jp/cmsfiles/contents/0000040/40105/20260126_03_.pdf)

市長 【別添資料に基づき説明・挨拶】

播戸社長(株式会社 IKOMA FC 奈良) 【挨拶】

玉井会長(株式会社 SCO グループ) 【挨拶】

#### 【 質疑応答 】

記者 なぜ生駒でチームを立ち上げたのですか。

玉井会長 私にとっては、誰といっしょに取り組むかということと、何のためにやるのかということが重要です。サッカーにおいては、地域の方々が元気になるため、密度の高い生き方が提唱できるようなそういうクラブをつくる、それを播戸さんとやる。今回、生駒という場所に機会を得ることができた

のは、さまざまご縁があって何か必然性があったのではないかと考えています。

**記者** 播戸社長の思いを聞かせてください。

**播戸社長** 奈良県には、奈良クラブというチームがあって、県で初めて J3 に昇格しました。そうしたチームと自分たちがライバルとなって、奈良県全体で盛り上がったらいいなと思っています。また、京都よりも古くから歴史がある古都奈良のチームとして、京都のチームにも挑戦できる、それをできるのがこのチームだと思っています。

それと、自分たちがどういうサッカーをするのかを、生駒市民 11 万人全員に決めてもらってもいいですし、チームの名前も「生駒 FC 奈良」ですが、市民に決めてもらってもいいのではないかと考えています。このように市民全員が参加できるクラブをつくれたら嬉しいと思います。

**玉井会長** 私は、負け方にこだわるのが大切だと思います。愚直に立ち向かって負ける、そうすると負けたとしても市民、サポーターは、感動を得ると思います。そうして市民に支持され、なくてはならないクラブになることを目指さないといけないと思っています。この生駒の地で「IKOMA FC 奈良」というチームを立ち上げる機会を与えていただきましたので、まずは市民の方々に恩返しをしたいと思っています。

**記者** 市とチームの協働の取組はいつから始めるのですか。

**市長** まだ、具体的には決まっています。

**記者** このような方向性で実施するということですね。

**市長** はい。そうです。

(その他の質問)

**記者** 1 月臨時議会の予算委員会で補正予算が否決されたことについて、今後どうされますか。

**市長** いろいろと考えて提案をしましたが、市民全員に配ることが大切だという声が多数を占めました。ご理解をいただくことができなかつたことは残念ですが、議会のご意向を踏まえて、市民全員に配ることを前提にした支援策を考え始めています。また、なるべく速やかに支援をすることが大切だと思いますので、改めて議案として提案していきたいと思っています。

**記者** どのような方法で配布されますか。

**市長** 様々な方法がありますので、今、メリットデメリットを出しながら最終的な整理をしています。

**記者** 金額は、数千円程度ですか。

**市長** 他の自治体と同じく、そのぐらいだと思います。

**記者** 当初、この案で可決される見込みだったと思いますが、事前の調整が十分であったのかという点についてはどうですか。

**市長** やはりデジタルを使うことは、課題点として、デジタルが使えない方、スマホを持っていない方への対応をどうするかという議論が出てくるというのは我々も想定していました。しかし、本市では、非課税世帯への給付や子育て世代への給食費の支援、他の自治体にはない高齢者への生きいきクーポン券もありますので、そういう意味では本市ならではの一定の給付という土台がしっかりあった上で、プラスとなる給付を考えました。また、地元への経済効果も期待できます。そうした点を、議会で説明したつもりですが、なかなかご理解いただけませんでした。そうした反省を踏まえて、改めて丁寧に説明していきたいと思っています。

**記者** 新しい予算案でも住民税非課税世帯に一律 3 万円というのは維持されますか。

**市長** そこも含めた検討をしています。非課税世帯に一定手厚くという思いはありますが、やはり全員に何千円という結構大きな額になりますので、全体の中で整理していきたいと考えています。

**記者** 一律の場合はデジタル商品券という選択肢はないのですか。

**市長** スマホでというのは、考えていません。

**記者** 見直し案については2月に臨時会を開きますか。

**市長** なるべく早く届けたいので、臨時会を想定しています。(了)